



# おちほ

第42号 平成14年3月5日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一



楽しさよりも…

あーおいしかった!?

落穂寮大イベントの一つであるクリスマス会が十二月二十四日に行われました。数日前から食堂には美しいステンドグラスや飾りがお目見えし、寮生さん達はクリスマスが待ち遠しいよう、食事もソワソワしていました。

聖歌隊によるオープニングで始まり音楽が聞こえてくると、口ずさむ寮生さんもいました。

職員劇や有志のガンバリも空しく、食べ盛りの寮生さんの食欲の前では影を潜めるようで、寮生さんの一番の楽しみは、豪華ディナーだったのではないのでしょうか？

コース料理で、キャンドルが灯りいつもと違う雰囲気だからか、少し緊張の面持ちで食べていました。普段なら「おかわり」とすぐ言う寮生さん達が少し遠慮がちにお皿を出していたのが、印象的でした。

クリスマス会も終わりに近づいた頃、どこからともなくサンタさんが現れ、プレゼントを配ってくれました。自分の名前はまだかと思いを輝かしていたり、不安な表情を浮かべていたり、プレゼントを貰うのにしても、人それぞれ色んな表情を見せてくれました。

サンタさん来年も来るかなあ？

# ふくむ今昔

なかで「矢野隆夫君は、終戦後、初期の近江学園にとびこんで、いま文化部長として、学園になくはならない存在となっている。」と記されている。

矢野家の家号「長兵衛」をうけつぎ、通称矢野長兵衛さんと呼ばれた。知的障害関係施設団



▲自宅できつろがれている矢野長兵衛（隆夫）氏

天性のユーモアで人に接し、とげとげしい緊張の空気をときほぐしてしまおう。本を愛し、文に親しんで書かれた文章は、気どらず淡々と記されているが、事体の核心をついた説得力あるものだった。酒を愛すること人後に落ちず、呑む程に呑み、いささかもハメをはずすことなく、シャレを飛ばして酒席を賑やかにした。彼の人柄を愛する酒友も同行の者も、あまりにも早くいつてしまった惜別に胸を痛めたのである。

長子隆弘君が長兵衛さんの遺志をつぎ、障害福祉施設で活躍されている。又次子雅彦君がIT産業大手の技術者として活躍されている。奥様もお元気でいられる。

ご一家の繁栄とともに、長兵衛さんの平安を祈念したい。

(二〇〇二・一・一九記す)

京都旧家の総領ボンボンの矢野隆夫さんが、知的障害者福祉に人生のすべてを燃焼し、大学時代レスリング部で鍛えた健康そのものだったはずが、病に倒れ平成8年73年間の生涯を終えられた。

糸賀一雄先生が著書「この子らを世の光に」のなかで「矢野隆夫君は、終戦後、初期の近江学園にとびこんで、いま文化部長として、学園になくはならない存在となっている。」と記されている。

体の機関紙編集をまかされ、取材で全国を駆けめぐり、多くの施設人と交流をふかめ、各地の施設ノウハウを紙上に照会し、中味濃いものを作りあげた。糸賀先生逝去後、惜しまれながら近江学園を退職し、大阪の「金剛コロー」に移られ、数々の業績をのこされた。僕が近江学園に務めたとき、すでに国内の著名人にあげられていた、先輩長兵衛先生と青年期の園

生の指導を担当した。むかし、学生の頃、勤務奉仕で一緒に汗を流した仲間という気安さから、ずいぶん勝手気ままを彼にぶつけて、困らしたことが多かった。しかし彼は、内面の心情は表にあらわさず、泰然と色もなさず、聞き流して動じなかった。やゝ早口で、自分に非があると先づは謝り、攻め手の注文を丸呑みしてしまうのだった。

理事長 増田正司

異色の施設人 矢野長兵衛さんのこと

# ふくむ今昔

# 熱れた情報社会

寮長 山下陽一

自転車まで幸せ運んでく……♪

二〇〇一年を通して思い返すとき、明るくうれしくなるようなことよりも、重く暗い事件があったことの影響が強いように思えます。自分の実子を虐待死させ、ビニール詰めして水路に放り込む事件、附属小学校に乱入して無抵抗な児童を多数殺傷する事件、ニューヨークの世界貿易センタービル激突テロなど、苦痛、激痛、悲惨などをともなう事件が連続しました。しかも私たちの身の回りのことから世界中を揺るがすことまで、次の瞬間に何が起こるか予想もできないほどの不安な現代社会を実感させることが続いて多発しました。

で、その一人ひとりのいのちを大切に育てている親たちの姿に焦点をあて効果的に構成されたものでした。弱いいのちを大切に守っているその姿を強く訴えたものでした。

わたしは、世界トップクラスのデザイナーに大資本をかけて制作するものではないけれど、ひとの感性に強く訴えるCMだと思っていました。

ところがそれ以後気をつけていたのですが、そのCMに出会わないのです。スポンサーはメディアに流すのを取り止めてしまったのでしょうか。

この業界は数種類のフィルムを制作しておいて、視聴率のリサーチをしながら効果的なものは流すがそれ以外はオクラにされるという厳しいおきての世界なのではないか。

障害のある子どもを大切に育てている親たちの姿は特別なことではないけれども、親たちも、ひとのやさしさがCMとして構成されることいろいろな手法で試みられているなかで、このCMは時代の過渡期を象徴しており社会の成熟のひとつの現れを感じるので、保険会社の倒産、合併、契約条件の切り下げの現代に、「〇〇のおばちゃん、自転車で今日も幸せを運んでく……」などといったもの怪しさに気がついたのではないのでしょうか。世の中の些細なところで生きていく姿にそのかけがえのなきが見つけられると、先のようなCMがもっと多くの機会に流れる時代になっていくことを願わ

ずいられません。手術は幸せなこと？

先日のですが、アメリカでは障害問題について価値観が混在していることを強く実感したことがあります。

聴覚障害の問題を取材したドキュメンタリーでしたが、おもい聴覚障害のある幼児に人工内耳の手術をすることは非について聴覚者の親とろう者の親と激論をかわしているのです。

聴覚障害児を持つ聴覚者の親は何とか音が聞こえるようにしてやりたいということで、手術して外耳後部から直接脳の一部に電気信号を伝え聴覚を身につけさせたいというもので、この手術は早期に行なわないと効果が期待できなく、ろうの生活が長ければ長いほど効果はないというものです。両親の思いも緊急で切実です。

これに対し、ろう者の親は聴覚がなくとも何も困らない、むしろそれを身につけさせることはその子に聴覚障害が負担になり、わずらわしいものになっていくから手術は子供の将来にとって不適切だ、という主張です。

立場の違った親たちは激論をかわします。ある父親は、自分は聴覚障害があってもビジネス上問題なくオフィスを経営し健聴者と一緒に仕事をこなしている、雨の音は聞こえなくても口で味わうことだってできる。聴覚を持った生活か持たない生活かはその本人の選択によるべきではないか、というものです。聴覚障害のわ

が子に「音が聴けるようになりたいか」と手話で尋ねると「そうりたいとは思わない」と子どもが答えるところまで取材していました。

さらに続き人工内耳の手術は「ろう者の文化」を破壊すると主張されています。

実をいうとこのあたり良くわからない論点で、判断が極めて難しいところだと思うのですが、価値基準が多様であることは避けられず、子どもにこうあってほしいという時、教育に何を求めるかが親も子どもも一生に渡る責任を負わされることになってたじろいでいるのが親の実の姿なのでしょう。

ほぼ二五年前スピルバーグの作品「未知との遭遇」で巨大宇宙船の異星人と地球人との交信のシーンは強い印象が残ります。

シンセサイザーの低いドミド<sup>①</sup>の音階にコミュニケーションの糸口を見つけ、両者が遭遇したとき手話は時空を超えて意思の疎通を行なう手段となりました。

手話は全身を表現の媒体に使う非常に優れた伝達手段だとおもいます。微妙な感情まで非常に豊かな内容を伝えることができるコミュニケーションの手段に違いないとおもいます。

情報伝達の重要性がますます求められる時代に移りつつありますが、成熟した社会における情報伝達のありかたを、もつとひとのやさしさに沿った方法が必要になっていくのではないかと思えます。





# 喰い初め 新年会

少々遅いようですが、みなさん明けましておめでとうございます。また新しい一年が始まりました。ということで新年を祝おうと女子棟新年会が1月10日に行われました。場所は八日市インター近くの「不二屋」という中華料理のお店。ここ何年かはこのお店で新年会、というのが恒例になっています。



▶どどん食べてます。

「なんでわざわざ八日市まで」と思われるかも知れませんが、それはこの不二屋さんが知る人ぞ知るガイドブックにも載るようなおいしいお店だからです。たまの外食

でもおもしろいモノをといるのが人情っつてもんです。そんな職員の思惑を知ってか知らずか当日は寮生さんも大はしゃぎ。「ごっそ(ごちそう)食べ行く」や「外ごはん食べたい」など口にしながらマイクロボスで出発。お店につくと早速お座敷の宴会場へ。クラスごとに席につくとお待ちかねの料理が次々と運ばれてきました。大皿にのせられた料理をみんなで分けるのが中華料理の楽しいところ。自分で出来る寮生さんには自分で小皿に取ってもらいました。上手に自分で取れるところまでは良かったのですが、よく見るとお肉ばっかり取っている人も…当然職員に「野菜もちゃんと食べなさい」とにんじんやピーマンを放り込まれていました。その他にもジュースをラップ飲みしようとする人や食後にはしゃいで駐車場を走り回る(危ないからして欲しくないんですけど)寮生さんもありたりとぎやかな新年会になりました。今年もこれから色々あると思いますが、これから一年、よろしくお願ひします。



◀お、おかわりー

# 地上の楽園 床暖

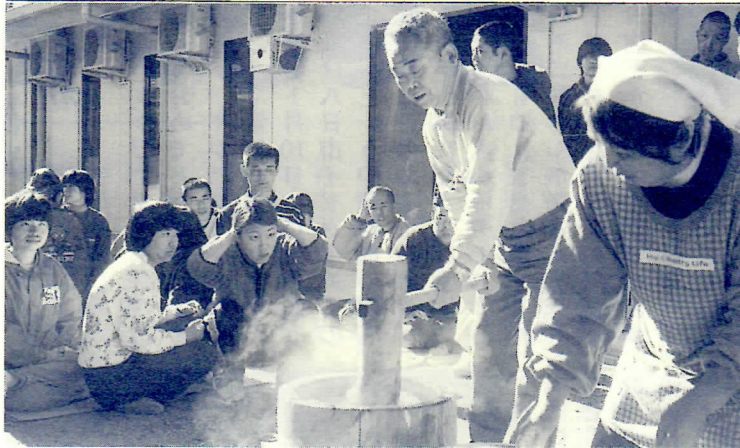
少しづつ春らしくなっていく毎日ですが、今年の冬もそこそこ寒かったですね。落穂でもカゼをひく人が何人もいたり大変な冬でした。さて、みなさんの御家庭ではどのような暖房器具が使われていますか？ コタツ、ストーブにエアコンといったところでしょか？ 落穂でも各寮生さんの部屋にはエアコンがついています。それよりみんなに大人気なのが、ホールの床暖です。ひと昔前まで冬の板ノ間はひどく冷たいものというのが相場でしたが便利な世の中になったもんです。この床暖も建物が新築された時に新しく取り付けられました。新しい建物になって今年で三回目の冬ですが、床暖の電源が入られるようになります。ホールでくつろぐ寮生さんの姿を見るのが恒例となってきました。ゴロンと横になってウトウトしたり、部屋から出てきてチョコンと座ったり。それに職員も加わっています。あぁ、ダメダメと思いつつ職員もあまりの心地良さについウトウトしてしまうことも…。



▶ホカホカでろ〜ん

またこの床暖のもう一つの良いところは、少々汚れても雑布などでサツと拭いてしまえばあっという間にきれいになってしまうこと。色々と汚れることの多い落穂では助かっています。ホットカーペットではこうはいきません。小さいお子さんの居るお家の方は良くお分りでしょう。ここまで書いてきたような気分ですが、唯困ったことも。この床暖はトイレの洗面所の下にもあって、そこでくつろいでしまう寮生さんもいるのです。人の少ないところでのびのびとした気持ちも分りますが、ちょっとトイレはねえ……。

ぺったん！ ペったん！



この冬も社協のみなさんによるもちつきが行なわれました。幸い天候にも恵まれ寮生も職員も楽しんでいただけました。

社協のみなさんは段取りが良く、こちらの方が準備に手間取りました。中でも何人かの顔見知りの方がおられ、懐かしそうに声をかけていただくと、何か心温かな気持ちで仕事させていただく事が出来ました。お昼には、つきたてのお

もちをお腹いっぱいいただき寮生の満足そうな顔が見られました。帰り際に「おつゆおいしかったです」「ごちそうさまでした」などの声をいただき、逆こちらが恐縮してしまふほどでした。言葉の

ぺったん



ぺったん！ぺったん！

やり取りが少しでもあったことが、今の落穂には一步の前進につながるように思えたりします。現在落穂寮は地域とのふれ合いを望んでいます。それぞれ寮生の個性が強く、こだわりもありなかなか実現したいのが現状です。ふれ合いを望む前に地域の皆さんに寮生

をわかってもらう事が必要だと思えますが、一緒に生活でもしない限りこれもまたなかなか難しい問題かもしれません。私も落穂で仕事する事がなければ、今だから寮生をわかる事などなかった様に思います。

寮生が、もう少し落ち着いたら、自然と日々の生活の中で地域にとけこむことが出来ることを望んでいます。

# 泉

▽先日、ある老舗の店に行きました。初めての客にもかかわらず、物を買いたて来た私にこれこれとお話し頂いたので、最後にひと言。「良い人生を送るには極道になりなさい」と言われたのです。つまり、何事も道を極める事が大切だということでした。勿論、その方は七十年間、その道ひと筋の職人さんでした。道を極めるにはこだわりを持つ事が欠かせません。当寮にも、沢山のこだわりを持つ方が多勢おられますが、そういう自分の糧にならないこだわりではなく、大切なものごとを守り育てていくこだわりを持って生きる事が大切なんだと思います。現代社会に失われつつあるものであり、ぜひ、職員に持ちあわせてほしいものだと思います。

## 木言

種は落ちて多くの実を結ぶ。犠牲になるのではなく、明日の命を生むために生かされるのである。誰かのためではなく、自分のために。そうして伝えられていくことに嘘はない。

春はすぐそこまできている。信じているからこそ、新たな芽が出はじめている。